

# 種を蒔くイエス

マルコによる福音書 13 : 1-9、18-23



司祭 ヨハネ 井田 泉

2023年7月16日  
聖霊降臨後第7主日

聖光教会にて

今日の福音書の初めのほうを読んでいてふと気づいたことがあります。

「その日、イエスは家を出て、湖のほとりに座っておられた。すると、大勢の群衆がそばに集まって来たので、イエスは舟に乗って腰を下ろされた。群衆は皆岸辺に立っていた。」

マタイ 13:1-2

その日、イエスの話を、群衆は皆立って聞いていた。イエスは舟の中に腰を下ろして話された。マイクはありません。よほどイエスさまの声はよく響いて届いたのでしょう。また人々は、イエスさまの言葉を一言も聞き漏らすまいと、耳を澄まして聞いていた。そういう情景が浮かび上がります。

さてこの日イエスが話された「種を蒔く人」のたとえば、わたしたちがよく知っている話だと思います。

種蒔きが種を蒔きに出て行った。ある種は道端に落ちた。鳥が来て食べてしまった。ある種は石地に落ちた。すぐ芽を出したけれども、根がないので、日が昇ると枯れてしまった。ある種は茨の間に落ちた。茨が伸びてふさいでしまった。ところがある種は良い土地に落ちて実を結び、100倍、60倍、あるいは30倍になった。

これを聞くとわたしたちは何を思うでしょうか。わたしたち

の多くは謙遜ですので、自分が良い土地だとは思わない。自分は道端だ、石地だ、あるいは茨の地のようだ。せっかくの蒔かれた種を失うか枯らすかふさいでしまうのが自分だ。こう思ってしまうことが多いかもしれません。

けれどもイエスさまはわたしたちがそのように思うことを願われたのでしょうか。イエスは「耳のある者は聞きなさい」とこのたとえを結ばれたのですが、わたしたちを失望に終わらせるのがイエスさまの意図だったとは思えません。反対に希望を抱かせるのがイエスの願いです。

それで今日はこの話について三つのこととお話ししたいと思います。

第1は、この種を蒔く人とはイエスさまご自身だ、ということです。イエスさまは願いをもって、祈りをもって種を蒔かれます。わたしはあなたがたの中に種を蒔く。困難があっても芽を出して成長してほしい。悪しき者が奪い取ろうとする。誘惑が妨げようとする。困難が立ちふさがる。そういう中であっても、わたしの蒔いた種が皆の中で成長し、実を結んでほしい。イエスは切に祈りつつわたしたちの間に種を蒔いて、その成長を見守っておられるのです。

第2に、この種は御言葉の種、神の国の種であって、この上な

く貴重なものだ、ということです。イエスはこの上なく大切なものを、ご自分の命をかけても守り育てたいものを、わたしたちの中に蒔かれます。それはイエスがわたしたちを愛しておられるからです。神の国の種が生長して実を結び、愛と平和と正義がそこここに実現してほしい。皆が神の国を味わって喜んでほしい。

そして種には命があります。イエスのまかれる御言葉の種、神の国の種には命があります。自ら殻を破って芽を出し、伸びて成長して実を結ぼうとする命があるのです。

あるときイエスはこんなふうに言われました。

「神の国は次のようなものである。人が土に種を蒔いて、夜昼、寝起きしているうちに、種は芽を出して成長するが、どうしてそうなるのか、その人は知らない。土はひとりでに実を結ばせるのであり、まず茎、次に穂、そしてその穂には豊かな実ができる。実が熟すと、早速、鎌を入れる。収穫の時が来たからである。」 マルコ 4:26-29

神の国の種は芽を出して成長する、というのです。どうしてそうなるのか人は知らないけれども、種はみずから成長する。蒔かれた場所はわたしたち。わたしたちの中で種は蒔かれて成長する。

ここにちょっと不思議なことが言われています。

### 「土はひとりでに実を結ばせる」

この「土」というのは「土地」と同じ言葉です。種は命を持っていてみずから成長するのですが、同時に種を囲んでいる土、土地がその成長を助けて実を結ばせる。その土、土地とはだれか。それはわたしたちのことです。イエスさまの周りに集まって、その言葉を大事にしようとしているわたしたち。そのわたしたちが神の国の実を結ばせる。自分は石地だ、茨だと悲観している場合ではありません。わたしたちはイエスの祝福と力を受けて、神の国の種の実りを結ばせるように招かれた者たちなのです。

今日の旧約聖書にこう言われていました。

「雨も雪も、ひとたび天から降れば／むなしく天に戻ることはない。それは大地を潤し、芽を出させ、生い茂らせ／種蒔く人には種を与え／食べる人には糧を与える。

そのように、わたしの口から出るわたしの言葉も／むなしくは、わたしのもとに戻らない。それはわたしの望むことを成し遂げ／わたしが与えた使命を必ず果たす。」イザヤ 55:10-11

神の口から、イエスさまの口から出る言葉は空しくならない。目的を遂げ、使命を果たす。実りを結ぶ。蒔かれた種には命がある。神の言葉、イエスの言葉そのものに命があるから、それ

は生きて働いて実を結ぶのですね。

ところでイザヤ書の中で神さまは「わたしの口から出るわたしの言葉」と言われたのですが、その神さまの言葉は自動的に空中に響いてくるというのではなくて、その言葉を受けて伝える人がいます。その人がいて語るからこそ、神の言葉が人に伝わります。

今も神さまは語ろうとしておられる。今もイエスさまは神の国を伝えようとして働いておられます。それで第3です。

御言葉の種を、神の国の種を、わたしたちも蒔くのです。イエスがなさっているその働きに加わります。イエスさまのもとに招かれたわたしたちは、主の働きを継続する。主とともに神の国の種を蒔くのです。

### 「種蒔きが種を蒔きに出て行った」

三つのことをお話ししました。第1は、イエスさまご自身が願って祈って、大切な種をわたしたちの中に蒔かれるのだ、ということ。第2は、その種とは御言葉の種、神の国の種であって、その種には命があってみずから成長する、ということ。そして第3は、わたしたちも御言葉の種を、神の国の種を蒔く。愛の言葉を蒔く。人を支える祈りも、大切な種のひとつです。

そうしてわたしたちは、イエスさまと労苦を共にし、一緒に

喜びます。

祈りましょう。

主イエスさま、あなたはわたしたちの間に神の国の種を蒔き  
つづけ、祝福を広げようとしておられます。わたしたちもまた  
その働きに加わることができますように。アーメン